

「首長部局等との協働による新たな学校モデルの構築事業」まとめ【概略版】

教育委員会名	能勢町教育委員会
研究課題	首長部局等との協働による新たな学校モデルの構築事業
研究のねらい	<p>能勢地域小中高一貫教育モデルを構築し、課題先進国日本における課題先進地域能勢町ならではの最先端のグローバル教育を実現し、近隣の学校のみならず、日本全国の学校に引けを取らない学校の魅力化を実現する。この研究により、能勢町の人口減少における課題や地方創生における課題、そして日本全国と同じような状況の中山間における課題解決に寄与すると期待し下記項目を研究課題とした。</p> <p>「課題先進地域「能勢」をフィールドで主体的に学ぶ児童生徒の育成</p> <p>①地域を学ぶ学習と自分の生き方を考える学習とをリンクさせ12年間をつなぐ新たな学習モデルの研究</p> <p>②能勢町・能勢町教育委員会（町内小中学校）・大阪府立能勢高校の越境的な協働による小中高一貫教育を通じた能勢町の活性化と地方創生グローバルリーダーの育成</p>
研究の概要	<p>○教育魅力化研究会及び各ワーキング会議の実施</p> <p>首長部局（まちづくり活性課、福祉課、地域振興課等）の関係部局や小中学校及び能勢高校教職員等を委員とした「教育魅力化研究会」を組織し、教育の魅力化について議論し、意見交換等を実施した。さらには3つのワーキング部会（グローバル能勢、キャリア教育、アフタースクール）を組織し、各部会での本格的な取組みに向けたカリキュラム作成や関係団体等との実施調整等を行った。</p> <p>○課題発見学習「アイディアソン」の実施</p> <p>地域の課題を見つけ、その課題を解決するために「考え続ける」学習機会（「解が1つではない問題を考える、地域を見つめ直す」等）として、「地域課題発見学習アイディアソン」を実施した。町内の中学生、高校生のみならず、町外の大学生も参加し、能勢地域の課題について考え続ける学習を実施した。</p>
研究の成果	<p><主な研究成果></p> <p>①能勢町役場各部局との調整が取りやすくなり、教育魅力化研究会での意見交換が活発になってきた。（写真は、魅力化研究会グループ協議後の資料）</p> <p>②新学校開校に向けての準備が、学校を含め町全体で取り組むことができ、最終パンフレットにまとめ、住民に周知した。今後新学校で取り組む学習についても確認することができた。</p> <p>③まち・ひと・しごとの総合戦略の第1目標に「教育の魅力化」が入り、「能勢町教育基本方針」にも「首長部局との協力による教育の振興」を積極的に進めることが記載された。</p> <p>④能勢高校や地域とも連携ができている。特に、アイディアソンの効果が大きい。地域課題発見のため、高校生と中学生の連携協働や地域の大人の方たちから様々なお話をさせていただく機会を作ることができ、地域との連携協働体制の構築も可能となった。</p> <p>⑤アフタースクール構想がまとまり、町民の子育て支援にもつながるように計画ができた。（福祉課等との連携協働によるもの）</p>
本件 問い合わせ先	<p>能勢町教育委員会 学校教育課 TEL:072-743-9038 FAX:072-743-9039</p> <p>E-mail:sidou01@town.nose.osaka.jp</p>



「首長部局等との協働による新たな学校モデルの構築事業」まとめ【概略版】

教育委員会名	宍粟市教育委員会
研究課題	首長部局等との協働による新たな学校モデルの構築事業
研究のねらい	<p>○地域の特性を生かした新たな学校モデルの構築</p> <p>①ふるさとに生きる子どもを育てる小中高一貫教育（千種町）</p> <p>②まちづくりの視点から考える地域の子どもの健全育成（波賀町）</p> <p>③地域防災や環境保全の取組に学ぶ大自然の中の学校づくり（一宮町）</p> <p>三つの中学校区が取り組んできたコミュニティスクールの実践をさらに発展させるため、首長部局のまちづくり推進部や健康福祉部、産業部等が学校・地域と連携して教育プログラムの策定に関わり、地域の特性を生かした学校づくり・地域づくりについて実践的な研究を行う。</p>
研究の概要	<p>①千種中学校区</p> <p>「子どもに夢を 千種に元気を！」を推進目標とし、かねてより「こども園・小中高」連携一貫教育に取り組んでおり、さらに今年度は、首長部局や「ちくさっ子を育てる会」にも参画していただいて町ぐるみの活動を展開した。</p> <p>具体的には、各学校園にある学校運営協議会と学校評議委員会をまとめた「たたら里学園運営協議会連絡会」に、首長部局や「育てる会」からもメンバーに入ってもらい、学校運営に係る協議を進めた。また、地域行事への参加・協力態勢を話し合ったり、年度末の関係者評価として意見をいただいたりして、「たたら里学園」をひとつのコミュニティ・スクールと考え実践を進めることとした。</p> <p>②波賀中学校区</p> <p>小中学校が連携しながら学校運営を行っており、波賀中学校区のコミュニティ・スクールは、広く地域住民から学校教育活動についての承認や提言を受け、地域と一体となって教育活動を行っている。このような中で、子どもには生徒指導上の課題である不登校やいじめの問題があり、学校は、子どもへはもちろんのこと家庭への支援を行っているが、十分とはいえない状況にある。</p> <p>そこで、現状の取組に加え、市福祉担当部局や関係機関にも参画を促し、より広い視点で児童生徒の健全育成について協議し、研究を推進することとした。</p> <p>今年度は、学校運営協議会、波賀市民局まちづくり推進課・保健福祉課、校区育成委員会の関係者と学識経験者からなる「波賀中学校区子ども育成協議会」において、本校区の取組テーマを確認し、課題解決に向けた総合的な対策プログラムを検討した。</p> <p>③一宮北中学校区</p> <p>本校区3小学校が28年度から統合となり「一宮北小学校」が開校となる。統合後も地域住民が引き続き学校に愛着を持ち、地域の学校としてより一層学校に協力してもらえるような「地域総がかりの教育」めざすこととした。今年度は、首長部局にも協力を得て、地域防災や環境保全等の色々なプログラムを企画し、地域の教育力を活かした実践に取り組んだ。</p>
研究の成果	<p>①千種中学校区</p> <p>(1)「こども園・小中高」が合同で行事をもつことで、大きな子は小さな子のお世話を自然とできるようになり、自分の育ってきた過程を顧みることになる。また逆に、小さな子は大きな子を尊敬の目で見ることができ、自分の近い将来の姿を投影している。異校種間交流により活動することで、ギャップが低くなり、スムーズな接続を図ることができた。</p>



<p>研究の成果</p>	<p>(2) 首長部局や「ちくさっ子を育てる会」に協力していただくことは、子どもたちにとって、保護者だけでなく、いわゆる「町のおじさん、おばさんが」一緒になって学校行事に取り組んでくれるという感覚がある。そのことで、地域に帰っても安心感につながり、保護者からも子育てに関して相談しやすい雰囲気をつくることにつながっている。</p> <p>②波賀中学校区</p> <p>(1) 講師を招聘しての教職員研修では、実践例を交えた生徒理解と生徒支援の方法を小中教職員が学び合うことができた。また、「不登校が輝く」と題された自由ヶ丘高校（姫路市）の取組や、不登校経験のある高校生に当時の状況や心情、葛藤の中でいかに克服したのかなどのお話を聞くこともでき、今後のよりよい生徒指導、支援の指針となった。</p> <p>(2) 演劇によるいじめ防止授業は、これから思春期を迎える小学6年生、中学1年生を対象に教職員の研修としても位置づけた。児童・生徒の体験をもとに演劇での再現によって、当事者の心情を細かに表現し、子どもたちの心に迫るものがあった。また、ロールプレイでいじめを防止するための方法を子どもたちが自ら演じる場面も設定され、より実践的な授業になった。さらに、ライフスキルを高める授業では、生徒の自尊感情と集団としての力、コミュニケーション力を育てることの必要性を実感できた。</p> <p>③一宮北中学校区</p> <p>首長部局からの職員派遣や地域住民の参画を得て、温かい地域が支える小中一貫校をめざした取組を進めた。すべての取組において、特に地域の方と触れ合うことで、児童・生徒は地域がより身近な存在だとわかり、地域に自分たちが育てられていることを実感した。これらの取組は、将来にわたり、地域を知り、地域に学び、地域を大切にできる実践力ある子どもの育成につながると確信している。</p> <p>首長部局は、様々な関係機関等とつながりを持っており、より専門的な技術や特性を活かしたゲストティーチャーを授業に招聘することを可能とした。今年度は、地域防災の取組や環境体験学習、学校行事に協力していただき、「本物」を感じる機会をもつことができた。</p> <p>【まとめ】</p> <p>市の子ども育成協議会連絡会では、数々の成果とともに、「地域コミュニティの衰退」という課題が出された。当事業1年目の総括としては、子どもたちにとって楽しい学校を創るため、教師が力量を高め、地域と学校、首長部局等の関係者が協力を惜しまず取り組むことが、地域の活性化やまちづくりにつながるのではないかと考えている。平成28年度も、さらなる取組の充実を図っていきたい。</p> 
<p>本件 問い合わせ先</p>	<p>宍粟市教育委員会 学校教育課 TEL:0790-63-3118 FAX:0790-62-0065 E-mail: gakkokyoiku-ka@city.shiso.lg.jp</p>

「首長部局等との協働による新たな学校モデルの構築事業」まとめ【概略版】

教育委員会名	伊丹市教育委員会
研究課題	首長部局等との協働による新たな学校モデルの構築事業 『他地域との交流で生まれる相乗効果を狙いとした共育プロジェクト』
研究のねらい	<p>市立伊丹高等学校（以後「市高」と呼ぶ）は、兵庫県伊丹市内の唯一の市立高等学校である。学校目標に「国際社会に対応できる地域の次代を担う人材の育成」を掲げ、コミュニケーション能力やプレゼンテーション力の向上をはじめ、地域の優れたリーダーの育成に努めている。</p> <p>その一環として、地域の活性化を図るため、商店街や自治会と連携して「伊丹育ちあい（共育）プロジェクト」を立ち上げ、教科「情報」や学校行事を通じて様々な活動を行っている。昨年度は、伊丹郷町商業会、イオンモール伊丹、神津・鈴原・稲野地区社会福祉協議会等と連携し、商店のポスター制作を通じた活性化連携、夏祭りでの協働事業、市高1学年の全生徒が企画・運営するハロウィンイベント等を行った。</p> <p>今年度は、伊丹市商工労働課や都市デザイン課、伊丹市教育委員会を核とした地域連携協議会を設置し、PDCAサイクルを踏まえ、これまでの取組に評価と改善を行うことに加えて、地域の特産品を活かした商品の開発や販売、広報活動を行うことで、地域との連携・活性化をより推進する。</p> <p>また、市高でこれまで実施してきた他地域及び他地域の街づくり活動を活発に行っている高校との相互交流活動から、学校間連携により自校の良さを再発見し、それぞれ独自の活動を見直す視点が得られることがわかった。市高生徒が、他地域と広く交流することによる相乗効果を狙いとした交流事業を併せて行いたい。</p> <p>なお、これらの市高生徒の活動は、普通科1年生の教科情報の「社会と情報」、2・3年生の選択「情報と問題解決」、「総合的な学習の時間」、「特別活動」で実施する。</p>
研究の概要	<p>①地域連携協議会 事業の総合的な推進及び、その評価・改善等を適切に行うために、市教育委員会、市商工労働課、市都市デザイン課、市高等により構成される協議会を設置する。</p> <p>②地域活性化事業 様々な地域資源と協働して、ハロウィンイベント、ポスター展、商品開発・商店経営実習等を実施することによって、市高生徒による地域の活性化の取組を充実させる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="397 1684 895 1966">  </div> <div data-bbox="911 1684 1409 1966">  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div data-bbox="397 1989 754 2022">ハロウィンイベントの様子</div> <div data-bbox="927 1989 1267 2022">開発商品（レモンゼリー）</div> </div>

	<p>③他地域との交流による地域活性化事業 他地域との交流サイトの構築及び他地域の高校との交流等を行うことにより、活性化を積極的に行う他地域の具体的な方策等を学ぶとともに、市高の取組を紹介することによる相互の学習効果を高める。</p> <p>④高大連携 生徒の学びの充実のために、事業の実施にあたって、大学教員から先進的な研究による知見に基づく指導助言を得たり、研究を行っている大学生と協働して事業の各催しの企画・運営・振り返りを行う。また、大学在籍の留学生との交流等を通して国際的な視野も養う。</p> <p>⑤地域間交流 本事業のあらゆる機会を通して、市高教職員及び生徒、大学教員及び学生、商店会、自治会、市職員、他地域の関係者等の相互の人的交流を通じた新たな価値の創造を図り、市高を核とした協働を促進する。</p>
研究の成果	<p>①生徒のコミュニケーション能力の向上 生徒が直接、地域に足を運んで地域の関係者や商店主等、多様なバックグラウンドを有する人々と協働することより、市高生徒のコミュニケーション能力の向上が見られた。</p> <p>②生徒の自尊感情等の醸成 生徒は、商店街（商店）との関わりや、地域の催しへの参画等を通じた多様なバックグラウンドを有する地域の方々とのふれあいにより、地域の一員としての役割を認識するとともに、地域との信頼関係を構築してきている。それらをふまえた、地域における自らの役割認識を踏まえた自尊感情が醸成されている。</p> <p>③生徒の思考力及び判断力の向上 生徒は、商店街（商店）との関わりや、地域の催しへの参画等を通して、市高の生徒の主体的な思考力及び判断力の向上が見られた。</p> <p>④地域のつながりの活性化 市高の生徒の活動が核になり、高齢者福祉施設における催しにシニアカレッジや市立中学校の参画が図られるなど、地域の活性化が新たな広がりをもたした。 なによりも、本事業の実施を通して、市高の生徒が主体的に地域の活性化に関わり、様々な催しに参画することにより、「市高生徒以外の若者も地域活動に主体的に参加するようになる」「地域のイベントに活気が出てくる」などの意見が地域住民から聞かれる。 また、「地域間の交流」「多世代・他施設とのつながり」などにより、さらに地域のつながりや活性化につながっている。</p>
本件 問い合わせ先	伊丹市教育委員会 教育企画課 TEL:072-780-4313 FAX:072-784-8083 E-mail:gakkyou@itami.ed.jp

※MS ゴシック、11P で作成してください。

本概要版は研究成果物（研究報告書）の概略版として、HP に掲載する予定です。

A4 2枚以内で図や表、写真などを入れわかりやすくご記入ください。